

共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの推進

障害者差別解消法の施行(H28.4)により、学校教育においても合理的配慮(*1)の提供が求められている。学校教育においては、ユニバーサルデザインの考え方をもとに、基礎的環境整備(*2)を推進し、合理的配慮の提供を確実にすることが重要である。

インクルーシブ教育システムの構築に必要な要件

全ての子供が安心して学ぶ教室づくり

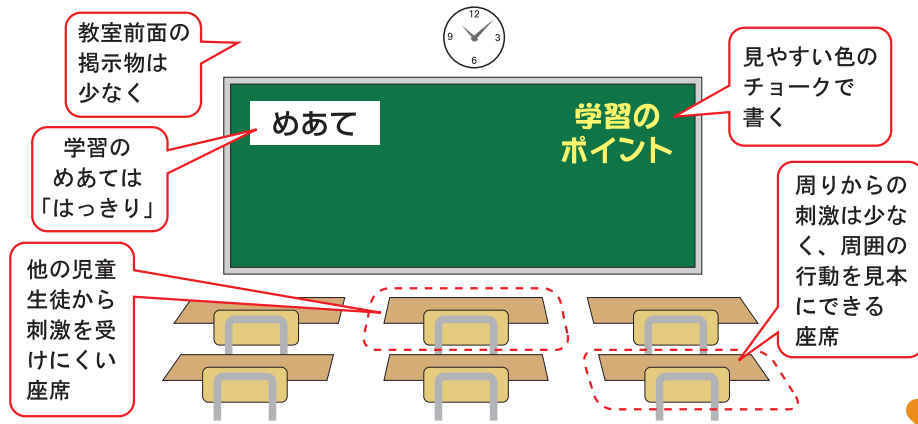
授業のユニバーサルデザイン化

(*1)【合理的配慮】

障害のある子が、他の子と平等に「教育を受ける権利」を行使するために、個々に必要となる適当な変更・調整（合理的配慮）が提供されること。

(*2)【基礎的環境整備】

障害のある子に対する支援のために必要な教育環境が整備されること。



授業のユニバーサルデザイン化 5つのチェックポイント

■「はっきり」…何をするのか整理

- ・学習のめあてを明示
- ・発問や指示は分かりやすく端的に



学習のめあてや流れを明示し、授業で何をすることを整理することで、学習の見通しをもたせる。

■「すっきり」…集中できる環境理

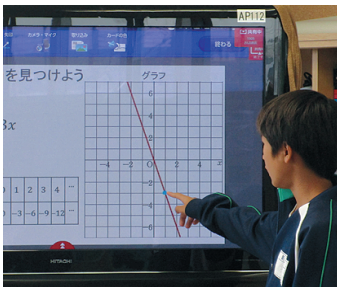
- ・黒板の周囲の掲示物は必要最小限に



学習に直接関係のない視覚的な刺激を減らすことで、授業に集中させることができる。

■「みえる化」…目で見て理解

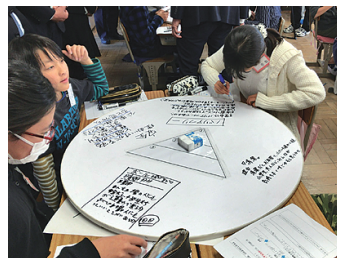
- ・デジタル教科書の活用
- ・実物投影機を使って考えを発表



「デジタル教科書」や「実物投影機」を積極的に活用し、話し合いを活発にすることで、学習の理解を深める。

■「学び合い」…どの子にも出番がある

- ・ペア学習、グループ学習
- ・互いを認め合う人間関係づくり



ペア学習や少人数グループ学習で、どの子も発言する場を設定し、互いを認め合う人間関係づくりを進める。

■「つながり」…慣れた形で

- ・学習スタイルを学校で共有
- ・号令や指示の出し方を校内で統一



学校全体で、学習の流れや号令のかけ方等を統一することで、学年が上がっても混乱せず、安心して学習できるようにする。

授業のユニバーサルデザイン化

5つのチェックポイントを活用して、授業づくりや教室環境づくりに取り組みましょう。

授業のユニバーサルデザイン化は、児童生徒の集中力を高めたり、対話的な活動が活発になったり、主体的で深い学びにつながります。

